一般　質問

令和4年　12月定例会

頓原小中学校の坂道に安全対策を

戸谷　ひとみ　議員

Q 状況に応じた安全対策を

２ｍ幅のロードヒーティングが稼働していた時は、年間で約２３０万円の電気代と約20万円の除雪費がかかっていた。この経費を削減するためロードヒーティングを新設しないと聞いていたが、昨シーズンは、除雪費と凍結防止剤散布で４４０万円となり増加した。

また、道路に水分がなく、雪が降る予報でない日にまで路面が真っ白になるほど凍結防止剤を散布する必要があるのか疑問だ。凍結防止剤の散布条件の検証が必要ではないか。

A 経費削減の検討を

町長　塚原　隆昭

凍結防止剤の散布は、町道ではこの道路のみである。町は散布車を持たないので、業者へ委託している。

今年度は災害対応で中断したが、令和5年・6年と道路改良を進める。完成後は登校路側だけに散布する。散布費は相当な経費であり、削減につながる手法を検討する。

Q 防護柵で車道と歩道の分離を

「子どもたちに接触してはいけないので登校路側坂道を避け、花栗側を通る」という声もある。安全対策に不安があるから通行しにくい道路となってしまえば、大金をかけ『改良』した意味がない。

車が衝突して子どもたちがケガをしたり、最悪の場合に死に至った時、私たちは後悔しないだろうか。一番大切にしないといけないのは、子どもたちの安全だ。

事故リスクの高い、長くて急な坂道に、車道と歩道を分ける防護柵を設置すべきだ。

A 防護柵は設置しない

町長　塚原　隆昭

カラー舗装で歩道を明確にし、必要な箇所にはゼブラ表示をする。

スリップは凍結防止剤できちんと対応するが、防護柵は設置しない。

Q 町の責任をどう考えるか

この道路で事故に巻き込まれて、子どもたちが怪我もしくは命を落とした時、どうするのか。

A 道路管理に努める

町長　塚原　隆昭

道路管理者に過失がある場合には道路管理者の責任となり、車両を運転していた本人に責任があればその方の責任となる。

町の責任は、道路管理をしっかりすることだ。冬期間は、除雪、凍結防止剤でできる限りの安全対策を行っていく。

高齢者福祉の環境整備を

安部　丘　議員

Q 高齢者福祉のビジョン策定は

昨年12月にもこの質問をした。町政座談会や「広報い～なん」では、現状と課題を伝え、町民に理解を求める内容に止まった。町長は行政報告で「グランドデザインを本年度中に作成したい」と改めて目標を示した。余すところ3カ月だが、副町長に進捗を問う。

A 急ぎ取り組む

副町長　奥田　弘樹

各事業者の現状や課題、事業方針について、トップにヒアリングを実施。社会福祉法人には理事会に出向き直接意見交換をした。

調整が難航しており、代表者数人を選出し、月に1回の会議を重ねている。デリケートな面があるので、慎重に進めている。当初日程から遅延しており、今後はスピード感をもって取り組む。

Q 思い切った政策を期待

抱える課題は様々で、計画も施設毎に異なる。だが、町が掲げるビジョンは、個別事情にとらわれ過ぎぬ高い視点の政策を期待する。

町長は「日本一福祉のまち」を如何にとらえ目指すのか。

A 医療・福祉の充実を

町長　塚原　隆昭

地域の力で健康長寿を目指し、住み慣れた飯南町で安心して生活できる医療・福祉の維持・充実に全力で取り組む。

Q 単身者住宅の追加整備を

共通課題として介護職員不足がある。解決策のひとつに外国人留学生や技能実習生の積極的採用があり、複数施設で始められると聞く。他業種へ就業された外国人は、モチベーションが高く、明るく、好結果を得ている。福祉施設でも定着すると課題解決に前進する。

一方で住居が問題だ。民間アパートのない本町が、外国人留学生やU・Iターン者を受け入れるには、単身者向け住宅の追加整備が必要だ。

自立型ケアハウスの利用希望も増加している。自由な生活を保ちつつ、ひとり身の不安を解消できるメリットは大きい。利用者の生活が充実し健康寿命がのび、介護の人的資源も有効活用できる。

これを融合した住宅整備は、地域を活性させると思うがどうか。

A 一体的に検討

町長　塚原　隆昭

本町への転入希望者や若者の住まいが不足しているのは事実。まずは単身向けの住宅整備を進めていきたい。

高齢者の住まいは、高齢者グランドデザインの策定に併せ一体的に検討したい。

特別養護老人ホーム あかぎの里